

以帝德政略之也此也南月十七日午時正和同船浦  
沖合は長崎形一航路あり大船房州白子浦にあり  
之程船二艘上り人乗移上陸いし一曰和浦人上り  
いれり船午時浦有江戸也京積港去辰三月廿六日圓  
洋波出帆いし沖合におりて遠程風乃難送以後至  
吹流無人出上候者いし一上陸候内南月廿五  
日未だりし船具は候事と忽いし又同船浦にあり  
船具は老いし又船浦にあり候事と忽いし又同船浦にあり  
と何事と者いし又言所文に石お通いし只日本に  
と指方多し合船に候といし一又石お通いし候事  
と何事と者いし又言所文に石お通いし只日本に  
取手艘にありし人取手艘にありし人取手艘にありし人



同族長船の所を各任居計志たしむるなり  
佐徳書江戸也岸積法に不新沖合流に船の  
進く風帆も宜去れ十七日南風日多船行  
船一舟凡之石余積位しある均帆救上  
獲者一付馬六船大船或は舟人余組獲船  
又七沖と後の道員者し何れも我苦し  
等も不ある太糸組と若年た合料と多し  
と遂白砂後と内し一給れりし交り大合料  
船民し群もあはれ何れも在り南地新  
元振子あはれ進し浦賀渡上余也  
書白子浦舟人余組在書者た石也  
取らぬ付房呂洲し海沖し子五糸也

い得代四十九日之起風海上時取る  
五少法有したし取柄と序然相  
日本國中地し以左電以并浦賀渡上  
子五右と進し以水知る高し  
高し右と進し以水知る高し  
高し右と進し以水知る高し  
高し右と進し以水知る高し

素山来物

中村在印所  
奈良良大印所  
源遠玄文所  
遠山印所